

令和6年度 事業報告書
伏見いきいき市民活動センター

【指定管理者:まちとしごと総合研究所】

1. 管理運営の状況

1 施設運営業務

(1) 職員体制

センター長 1 名、職員 10 名（常勤：1 名/非常勤：9 名）

【人材育成の取組】

- ・ 公共施設の運営、管理における基本的な業務については、OJT を行い、各スタッフが適切に業務を実施できるようにしています。
- ・ 全体での研修を通して、市民活動センターのスタッフとしての支援力向上やノウハウ共有などを行っています。
- ・ 定期的な面談を通して、各自のスキルアップやキャリア形成、ワークライフバランスを確認する機会をつくっています。

(2) 貸館等

ア 利用件数

(月別)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
257	279	266	264	232	268	272	260	233	215	250	253

(年間)

3049 件（前年度比 93%）

イ 利用状況

- ・ 昨年度に比べて、全体の件数は減少しました。特に 8 月、2 月、3 月は、昨年度と比べると約 40 件減少しました。8 月の猛暑や 2 月、3 月の厳寒などの気候が 1 つの要因となっている可能性があります。
- ・ 音楽室は、他の部屋に比べて料金が安いことに加えて、少人数での利用や当日予約も増えてきています。
- ・ 会議室 305、会議室 306 は、平日土日いずれも夜間利用が多くありました。定期利用団体が増えたことで希望日時が被ることがありました。対応として、新たに会議室 202 に移動式鏡を設置しました。一方で、日中(13 時～17 時)の時間帯は空いていることもあり、利用促進をしていく必要があります。
- ・ 集会室は、地域住民から「吹奏楽団の打楽器の音が気になる」という声があったため、土曜日夜間の楽器利用を制限しました。そのため、集会室夜間の利用件数、利用時間が減少しました。

ウ 利用促進に向けた取組

- ・ 館外の歩道に面している掲示板でセンターの会議室の紹介を行いました。どのようなお部屋があるかわかるよう、お部屋の写真を掲示しました。加えて、利用団体のメンバー募集チラシやイベントチラシを掲示することで利用内容に興味を持っていただき、センターを訪ねていただくように工夫しました。実際に、「掲示板を見て来館した」や「前を通り気になって、問い合わせした」というように利用につながりました。

ウ 利用促進に向けた取組

- ・リーフレットを再度印刷し、伏見区内の飲食店や関係機関への配架を行いました。
- ・利用目的に特化した宣伝物を作成しました。例えば、「音楽」での利用を考えている方には、音楽でおすすめの部屋のみをピックアップし、宣伝を行いました。楽器店やピアノ教室などに直接持参し、伏見区内での認知度アップを目指した行動を行いました。
- ・伏見区民、近隣住民にセンターの存在を知ってもらうために、センター入口にセンターのことを紹介する掲示物を設置しました。センターの存在を通りがかる方や市バス利用者に知っていただくきっかけをつくりました。

エ その他

サロン利用人数(述べ) : 2691名(昨年度 : 2916名)

- ・館外に掲示しているお知らせや予定表を見て、興味を持ってくださる方がいました。そのような方に対しては、スタッフとのコミュニケーションにより、館内に入っていただき、詳しい取り組みの紹介や参加をしていただきました。
- ・以前からサロンにいられていた方がご友人やご兄弟を誘って、サロンに参加するというながれができています。
- ・自由来館においては、未就学児を連れてお父さん、お母さんもサロンを訪ね、遊具で遊ぶなどの姿がみられました。

(3) 情報発信等

ア 取組実績

- ・SNS(Twitter、Facebook、Instagram)にて、事業の様子や貸館情報を定期的に発信しました。
- ・SNS においては、協力いただいた団体をタグづけすることでセンターだけでは届くことが難しい層への発信を行い、センターを知っていただく機会としました。加えて、センターに関連した投稿をしてくださった方には、いいねやコメントなどセンターからリアクションを返すことも心がけました。
- ・伏見区の市民活動を応援する助成金情報を発信しました。
- ・センターまでのアクセスに関する問い合わせを受けることから、SNS で最寄駅からセンターまでのルートを動画にして、発信をしました。センターSNS をフォローしてくださっている方はもちろん、動画で発信することでセンターを知らない層にも届けることができました。

イ 取組の効果

- ・事業と関わりのある方が、SNS でのシェアやコメントなどリアクションをしてくださり、SNS を通じた交流を行うことができました。

(4) 管理運営

- ・法定点検としてある、消防用設備点検、空調保守点検、建築設備点検、定期清掃などは業者に依頼し、期日までに実施をしました。
- ・上記の法定点検以外にも、日常的に施設の維持管理をチェックシートをもとに定期的に行いました。

- ・防火管理者の選定、消防訓練など緊急時の対応を検討しました。
- ・その他、備品等の保守管理、保安警備業務等を実施しました。

(5) その他

- ・センター運営において気になる点や改善点があれば、スタッフ全員が出席する定例会議において全体で検討を行い、アイデア出しや提案を行いました。
- ・高校、大学などの教育機関と連携し、地域での学生の活動コーディネート(龍谷大学政策学部 Ryu-SEI GAP)や学校運営協議会への出席(京都府立京都すばる高等学校)、高校の探求の授業へのアドバイザー(京都橘高等学校)を行いました。

2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

【事業名】伏見の市民活動を生み出す支援プロジェクト

～新しいチャレンジを生み出す支援プロジェクト

事業の概要

- 1 開催日時：2024年5月～2025年2月(全6件)
- 2 開催場所：淀児童館、南浜児童館、稻荷小学校、深草商店街、藤森神社、京都信用金庫伏見支店
- 3 参加人数： 6団体
- 4 協力団体等：なし
- 5 予算：1,470,000円 / 決算：1,433,124円

1 事業内容

地域での活動の中には、毎月定期的実施している居場所や子ども食堂、季節イベントがあります。運営側は、工夫を凝らして内容を実施していますが、自分たちだけで新しい内容を考えるには限界があります。

一方、センター利用団体のなかには、地域で活動を発表する機会を探しているケースも少なくありません。活動を発表することを目標に日々の練習を頑張ることができるという声もよく聞かれます。

そこで、活動メニューに悩む地域団体と活動の機会を求めるセンター利用団体を結び、新しいつながりを築く取り組みとして昨年度に続き、今年度も実施しました。今年度は、6件のご相談をいただき、地域とセンター利用団体をお繋ぎしました。

2 準備段階での工夫

伏見区内の活動団体やイベント主催者に直接連絡をとり、センターの取り組みを紹介しました。一方的な連絡で終わらせるのではなく、地域側の状況を理解したうえでどのようなメニューが提供できるか考えました。また、事前うちあわせを必ず行い地域、利用団体ともに顔の見える関係性が気づけるような工夫を行いました。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

定期的に居場所づくりを行う活動団体や地域で新しいイベントを開催する団体に対し、メニュー提供やゲスト探しを簡易にすることで、実施のハードルを下げます。昨年度のつながりを継続させながら、新規依頼獲得を目指します。

(2) 事業実施による目標の達成度

今年度は、6件の依頼がありました。初めてご依頼いただく地域団体、施設もあり、継続的に事業を実施していることで事業の認知度が深まっていることがわかりました。また、今回初めて事業に協力いただいた利用団体もあり、今までは異なる団体を地域に繋げることができました。依頼数は、昨年度に比べると減少しました、地域・利用者双方から事業について

好評な声をいただくことができました。

例えば、今までコンクールに向けて練習を重ねていた吹奏楽団が児童館で演奏した事例では、観客の近くで演奏することでダイレクトに反応を得られたことに対し、利用団体は楽しさを感じ、「今後も地域での演奏を定期的に受け入れていきたい」という発言がありました。また、一昨年度から継続して依頼をいただいている商店街イベントでは、昨年度の様子が参加者から好評であったため、今年度も再度ご依頼をいただきました。さらに、昨年度のイベントの様子をご覧になった近隣の商店街からも、ご依頼をいただきました。加えて、児童館での将棋教室においては、昨年度事業を活用した児童館と今年度新たに事業を活用した児童館との間で合同将棋教室が実施され、当センターの事業を起点としたつながりの波及が見られました。

4 今後の抱負

昨年度からご依頼いただいている事例については、地域団体とセンター利用団体との間で一定の信頼関係が構築できることから、今後は当センターが間に入らずとも、両者間で主体的に連携・調整いただけるよう、自走化を支援していくことを目指します。

今年度は新規のご依頼が少なかったため、次年度に向けては、当センターの取り組みをより広く周知し、新たな連携機会の創出に繋がるよう、情報発信の方法や対象の見直しなど、「届ける工夫」を検討・実施します。



【事業名】伏見の市民活動を生み出す支援プロジェクト

～市民の学び・対話の場づくり事業

事業の概要

- 1 開催日時：2024年5月～2025年2月
- 2 開催場所：伏見いきいき市民活動センター 会議室 101
- 3 参加人数：述べ31名
- 4 協力団体等： 実行委員会形式で行った場合はその団体名 等
- 5 予算：1,520,000円 / 決算：1,408,496円

1 事業内容

地域課題や社会課題をテーマに、市民が関心のあるテーマをゲスト講師による講演と参加者同士のディスカッションを行うワークショップを開催します。今年度は、「自治会・町内会」をテーマに現役役員や住民を招き、各地域の運営における工夫や課題を共有する場をつくりました。特に、先進的な取り組みを行う自治会・町内会の事例紹介を通して、参加者が地域活動のヒントを得ることを目指しました。

ゲストとして、自治会をサポートする有志グループを結成し、自治活動を後方的に支援する取り組みを行っている地域や、自治会の会員制をなくし、協力金制とすることで住民が関わる余地をつくっている地域などをお招きしました。

2 準備段階での工夫

自治会・町内会のサポートされている方や実際の役員さんたちにもお話をお聞きするなかで、抱えている課題について深めていきました。どの地域でも「高齢化」、「担い手不足」、「情報発信方法」などの共通している課題が多くありました。参加される方が興味を持ってくださるようなテーマを選び、実施しました。自治会・町内会の会長さんや役員さんに対して直接お声がけやご連絡をし、参加を呼びかけました。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

各回ごとに自治会・町内会で地域地域づくりに取り組んでいる方々にお越しいただき、運営の中で直面している課題や、その解決のための工夫やアイデアについて伺います。参加者がこうした実例から学びを深め、自分の地域に役立つ知見を持ち帰ることができるような機会を提供します。また、参加者同士の情報交換・交流の場とすることで地域で同じように感じている仲間がいることを感じていただけることを目指します。

(2) 事業実施による目標の達成度

参加者は、京都市内はもとより、長岡京市、宇治市など近隣地域からも熱心なご参加をいただきました。参加者からは、地域特性や世帯構成などが地域によって異なるため、単一の事例をそのまま自地域に適用することは困難であるものの、本事業を通じて、それぞれの地域で応用可能なヒントを得るために参加したという声が多く聞かれました。

また、各回の終了後には、参加者間での個別な質疑応答や情報交換が活発に行われ、当初の目標通り、地域活動に携わる方々の交流の場として機能いたしました。

アンケートでは、「大変満足」との回答が 60%、「満足」との回答が 40%となり、参加者のみなさんには満足いただける内容であったと評価しています。「今後の自治会活動の参考になった」、「具体的な内容を丁寧に話していただいたことで今後考えていくヒントをいただくことができました」といった意見が寄せられ、参加者が本事業で得た学びを自身の地域に持ち帰り、活用しようとする意欲が窺えました。

4 今後の抱負

参加者のみなさんから本事業の継続的な実施を望む声が多数寄せられています。このため、「自治会・町内会」をテーマとした取り組みについては、今後も検討していきたいと考えています。また、センターとしては、事例紹介にとどまらず、地域課題の解決に向けたより具体的な支援の検討を行なっていきたい。



【事業名】市民活動団体や地域団体の伴走支援プロジェクト

事業の概要

- 1 開催日時：2024年5月～2025年2月
- 2 開催場所：伏見いきいき市民活動センター
- 3 参加人数：2団体
- 4 協力団体等：なし
- 5 予算：778,000円 / 決算：736,209円

1 事業内容

今年度も引き続き、伏見区内の市民活動団体や地域団体、学生団体を対象にそれぞれが抱える課題に対しての伴走支援を行います。団体が抱える課題を明らかにするための対話をコーディネーターが行い、解決のための要点を可視化します。必要に応じて、専門家や先進的に同様の課題に取り組む団体からアドバイスをもらうセッションや、ワークショップを実施します。

今年度は、伏見区久我地域で子どもを中心とした地域の居場所づくりを行う「ゆるくる実行委員会」、センター周辺中学校に通う、中学生に対して学習支援活動を行う「STUDY ONE」、2団体の伴走支援を行いました。

2 準備段階での工夫

団体の状況に合わせたサポートを行うため、個別のヒアリングを行いました。ヒアリングでは、団体の概要、活動内容や課題をお聞きしました。活動団体においては、日々の活動を行うことで精一杯になり、じっくりと団体の活動について振り返る時間を取れておらず、またそういったことを話す相手も限定的であったため、アウトプットする時間となるようにじっくりとヒアリングを行いました。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

専門家や一歩先を進む活動団体に課題に対してアドバイスや工夫を聞き、課題を抱えている団体のヒントとなるような場をつくります。また、団体が話を聞いて終わりではなく、話を踏まえてアクションするまでをサポートします。団体の抱えている課題によっては、専門家の話を聞く機会を提供するのではなく、センターの施設を活用した取り組みを展開してもらいます。

(2) 事業実施による目標の達成度

団体だけでは、解決が難しい課題に対して、少し先行く団体の活動の工夫を知ることで、自分たちの団体に活かす工夫を行っていました。アドバイス側においても、活動団体が使用できるようなフォーマットや実践的なアドバイスの提供があり、活動団体がさらに活動を進めていくための参考になりました。

「客観的に自分たちの活動を見つめ直すことができた」、「行動した後に言葉にして振り返ることで自分たちの変化にも気づけた。」という声をいただきました。

また、定期活動をセンターで行なっている団体においては、対象者の親御さんから問い合わせの連絡がありました。実際の活動に参加するところまでは、難しかったが、公共施設とうセンターの特性から安心感を感じてもらうことができました。

4 今後の抱負

市民活動センターとして、引き続き伏見区内の活動団体の支援を行なっていきます。どのような支援が必要とされているか、活動団体のみなさんの声を聞きながら、事業の見直しも行います。



【事業名】多世代交流拠点 きょういく基地プロジェクト

事業の概要

- 1 開催日時：2024年5月～2025年2月
 - ・まーじゃん塾：20回
 - ・ハンドメイドサロン：9回
 - ・コグニステップ：9回
 - ・笑いヨガ：7回
 - ・うたごえサロン：8回
 - ・いきいき筋トレ(ロコステップ・リズムステップ)：27回
 - ・おしゃべり手芸サークル：10回
 - ・筋トレ体操：20回
 - ・にこにこルーム 10回
- 2 開催場所：伏見いきいき市民活動センター サロン
- 3 参加人数：
 - ・まーじゃん塾：述べ500名
 - ・ハンドメイドサロン：述べ68名
 - ・コグニステップ：述べ68名
 - ・笑いヨガ：述べ42名
 - ・歌声サロン：述べ162名
 - ・いきいき筋トレ(ロコステップ・リズムステップ)：述べ445名
 - ・おしゃべり手芸サークル：述べ33名
 - ・筋トレ体操(足上げ)：述べ457名
 - ・にこにこルーム：述べ35名
- 4 協力団体等：なし
- 5 予算： 982,000円 / 決算：981,506円

1 事業内容

今年度も、シニアの得意や好きなことを活かし、仲間を募り、活動をスタートさせる「○○さんの日」を継続して実施しました。今年度は、8つのグループが活動し、新たに手芸グループが発足、継続に至りました。一方的に教える形ではなく、参加者同士の交流を大切にした運営となっています。当初は、メンバーが集まりにくい状況となっていましたが、センターのお知らせでの発信やスタッフによる声掛けにより、少しずつメンバーを増やしています。

一方で、リーダーのモチベーション低下により、活動継続が困難となったグループもありました。メンバーからの懸念を受け、スタッフがリーダーとメンバーの間に入り、調整を行いました。結果的には、活動終了となりましたが、センターがサポートに入ることで双方の思いや方向がわかりました。

また、センターの掲示板やお知らせを通じて、年代問わず、新しく取り組みに参加してくださる方もいました。

2 準備段階での工夫

各取り組みのリーダー(〇〇さん)とのコミュニケーションを丁寧に行いました。日々の活動の様子だけでなく、活動中の困りごとやメンバーさんの様子などをお聞きし、継続的な活動を行えるようにサポートしました。

毎月の予定表を発行し、新しい取り組みに関しては、詳しく記載するなど多くの方が興味を持ってくださるよう工夫を行いました。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果, 目標等

シニアが今までのスキルや得意を活かして、主催する場づくりをサポートすることを目指します。活動する際にネックとなる、人、資金、場所をサロンを活用することで、活動のはじめの一步を踏み出しやすくします。

また、参加メンバーが固定化してきている点も課題としてあるため、新たな参加者を募集し、そこから担い手の発掘も目指します。

(2) 事業実施による目標の達成度

今年度は、新しい取り組みが1つスタートしました。当初は、2~3名と人数が少ないなかでのスタートでした。しかし、シニアのみなさんの口コミやスタッフの声掛けにより、毎回5~6名程度の参加となっています。少しずつではありますが、参加者が増加しています。

また、サロン外部掲示板を見て、サロンに来館してくださる方やもともと興味があり、一步を踏み出してくださった方など新しい利用者も増えています。

「体操などの取り組みを行うだけでなく、人とのつながりもできる」、「今まで興味を持っていたけれど、なかなか一步を踏み出せなかった。一步踏み出すことでさまざまな活動があることを知った」という声をシニアのみなさんからいただいています。

4 今後の抱負

新しく活動をスタートしたいシニアの発掘を十分に行うことができませんでした。そのため、来年度以降は、スタッフとシニアのみなさんとのコミュニケーションの頻度を高め、得意やスキルを引き出す機会をつくっていきます。



3. 利用料金の収入実績及び管理運営に係る経費の収支決算

1	利用料金の収入実績 令和 6 年度実績：4,317,840 円（前年度比 92%） 〔内訳 会議室等：4,261,400 円 付属設備：56,440 円〕
2	管理運営に係る経費の収支決算 別紙収支決算書のとおり

4. 施設の利用者満足度の把握

1	利用者満足度の把握状況 (1) 全センター共通窓口サービス調査 【実施時期】 令和 5 年 1 1 月実施 【調査項目】 窓口サービス (2) センター独自アンケート 事業実施時にアンケートを実施																																																
2	利用者満足度把握の結果 (1) 全センター共通窓口サービス																																																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>たいへん 満足</th> <th>満足</th> <th>不満</th> <th>たいへん 不満</th> <th>無回答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 案内表示の わかりやすさ</td> <td>34.6%</td> <td>57.9%</td> <td>4.7%</td> <td>0%</td> <td>2.8%</td> </tr> <tr> <td>② 挨拶や声か け</td> <td>53.3%</td> <td>44.9%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>1.9%</td> </tr> <tr> <td>③ 身だしなみ</td> <td>47.7%</td> <td>50.5%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>1.9%</td> </tr> <tr> <td>④ 表情や態度</td> <td>48.6%</td> <td>49.5%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>1.9%</td> </tr> <tr> <td>⑤言葉づかいや 説明の丁寧さ</td> <td>50.5%</td> <td>46.7%</td> <td>0.9%</td> <td>0%</td> <td>1.9%</td> </tr> <tr> <td>⑥説明の わかりやすさ</td> <td>44.9%</td> <td>49.5%</td> <td>1.9%</td> <td>0%</td> <td>3.7%</td> </tr> <tr> <td>⑦整理整頓</td> <td>42.1%</td> <td>51.4%</td> <td>1.9%</td> <td>0%</td> <td>4.7%</td> </tr> </tbody> </table>		たいへん 満足	満足	不満	たいへん 不満	無回答	① 案内表示の わかりやすさ	34.6%	57.9%	4.7%	0%	2.8%	② 挨拶や声か け	53.3%	44.9%	0%	0%	1.9%	③ 身だしなみ	47.7%	50.5%	0%	0%	1.9%	④ 表情や態度	48.6%	49.5%	0%	0%	1.9%	⑤言葉づかいや 説明の丁寧さ	50.5%	46.7%	0.9%	0%	1.9%	⑥説明の わかりやすさ	44.9%	49.5%	1.9%	0%	3.7%	⑦整理整頓	42.1%	51.4%	1.9%	0%	4.7%
	たいへん 満足	満足	不満	たいへん 不満	無回答																																												
① 案内表示の わかりやすさ	34.6%	57.9%	4.7%	0%	2.8%																																												
② 挨拶や声か け	53.3%	44.9%	0%	0%	1.9%																																												
③ 身だしなみ	47.7%	50.5%	0%	0%	1.9%																																												
④ 表情や態度	48.6%	49.5%	0%	0%	1.9%																																												
⑤言葉づかいや 説明の丁寧さ	50.5%	46.7%	0.9%	0%	1.9%																																												
⑥説明の わかりやすさ	44.9%	49.5%	1.9%	0%	3.7%																																												
⑦整理整頓	42.1%	51.4%	1.9%	0%	4.7%																																												
	(2) センター独自アンケート 特になし																																																
3	意見等への主な対応状況 ・「掃除をもう少ししてほしいです。」「ときどき小さなゴミが落ちています。」という声に対しては、スタッフ定例会議にて改めて清掃の徹底と重点箇所の確認を行いました。 ・「会議室 306 の床が滑りやすい」という声に対しては、週 1 回の水拭きの実施を行いました。根本的な原因の特定には至っていません。																																																

・「鏡を増やしてほしい」、「スポーツ用マットを貸し出し備品として増やしてほしい」という声に対しては、鏡の増設については以前から同様の要望をいただいていたこともあり、年度末に移動式鏡 2 台を購入し、設置しました。

・「場所がわかりにくいいため、もっと大きい看板がほしいです」、「センターの案内がわかりにくいという人が多いです」という声に対しては、センター入り口に大きな掲示物を設置し、場所がわかるようにしました。

・上記以外には、「トイレの洋式を増やしてほしい」、「エレベーターを設置してほしい」という施設に関する意見「室内には 5 分前に入れてほしい」、「同曜日、同時間の予約をもっと簡単に予約できるようにしてほしい」「キャッシュレス化してほしい」という利用・予約に関する意見をいただきました。施設改修を伴うものや現在のセンターの運営状況では安定的に導入することが困難なものがありました。

・「」

5. 指定管理者による管理運営業務の自己評価

・ 取り組んだ事業等の総括を記載してください。

貸館については、昨年度より利用が減少しました。大きな理由としては、①集会室土曜日の夜間楽器利用制限による吹奏楽団の利用減少②定期利用団体の減少③新規定期利用団体の獲得不足④猛暑などの気候と考えています。新規利用団体の獲得においては、認知度向上のための取り組みを引き続き行なっていく必要があります。

事業については、事業内でのつながりづくりを継続・新規ともに行うことができました。また、活動団体の取り組みが継続的に行われるための相談対応やサポートを行い、伏見区内の活動を応援することができました。

・ 今後、解決すべき課題等があれば記載してください。

貸館については、上記に記載したように、利用が減少していることが課題となります。さらに多くの方に知っていただき、利用していただくための取り組みを検討していく必要があります。

事業については、「つながり」をつくることができましたが、その後のアクションについて十分に展開をつくることができていません。つながるで終わるのではなく、その後をイメージしながら事業を実施していく必要があります。

- ・ 次年度に向けた対応について記載してください。

貸館については、利用用途に合わせた情報の発信をさらに行なっていきます。13の部屋すべてを紹介するのではなく、利用用途や利用のしやすさを考慮し、どのような方が利用できるかを想定しながら発信していきます。また、待合スペースの設置など猛暑でも快適に過ごしていただけるための工夫を考えていきます。

事業については、より多くの方にとって役に立つ、活動を支援できる事業であるか、見直し、実施していきます。

6. その他施設の管理運営に関する重要又は異例な事項

特になし